

魅惑のベトナム第3の都市、ダナン市

石川 幸

近年、ベトナムでも多くの日本人旅行客の姿が見受けられるようになりました。日越の架け橋となるために尽力する私達としては、これは非常に嬉しいことです。しかし、その一方、リピーターを含め観光客の大半がハノイ市（北部の中心。ベトナムの首都）やホーチミン市（南部の中心。最大の人口）の2大都市にばかり偏重している風潮があります。ベトナム全土は南北1,600キロの縦長の国であり、そして、決して、ハノイ、ホーチミンの2大都市だけがベトナムの全てではありません。

そこで、今回は「ダナン市」をご紹介したいと思います。ダナン市はベトナム第3の都市として知られており、100万人以上の人口を擁する中部最大の特別市になります。

<ダナンの魅力>

ダナン市は2014年の世界の人気急上昇中の観光都市トップ10（米TripAdvisor調べ）で1位を獲得した程、観光地として注目を集めております。（国内でも1、2位を争う観光都市です。）

その最大の理由はコンパクトなロケーションにあります。中心部に国際空港を擁しながらも、余裕をもった道路など、ゆったりとした社会インフラ整備がなされ、充実した都市水準になっています。

その一方で、四方を海と山に囲まれた、自然豊かな環境でもあり、結果、ベトナム屈指の都市型リゾート地として知られるところとなっています。東部には数十キロにも渡り白い砂浜が続き、美しい景観と海水浴などの海を楽しむことができます。そして南部には自然豊かな山々が連なり、喧騒とはかけ離れた空間を満喫することが出来ます。

<美食の街>

また、食に関してもダナンはベトナム随一の美食の街と言えます。国内でも屈指の水揚げ量を誇る港や、山の幸を多く実らせる山々は正に美食の宝庫。これらを用いて作られる料理は、ホーチミン市やハノイ市ではなかなか味わうことは出来ません。値段も両都市より格段にリーズナブル。

ミークアン（シーフードが乗った、汁なしの「きしめん」のような平打ち米粉の麺料理。）、ブンボーフェ（同じ米粉の麺だが、牛肉入りフォーのような料理）、カオラオ（うどんのような太めの米麺。醤油ベースの甘辛く味付けをしたタレ汁の料理）、宮廷料理（当時の皇族が食していた料理、隣町のフエがベトナム最後の王朝）などなど、ベトナム人であれば誰もが知るご当地料理があります。

<ビジネス環境も充実>

ホーチミン市、ハノイ市の2大都市と比較して人件費等が安く、日系企業を含めた多くのIT企業がダナンに進出する傾向が見られます。ダナンに拠点を持つ日系企業は2017年7月時点で100社（ダナン日本商工会ホームページより）を超え、今後もますますの増加が見込まれております。

なお、2017年11月には「APEC（アジア太平洋経済協力）」の首脳会議開催地として選ばれており、空港やホテル等のインフラ拡充がさらに急ピッチで進んでおります。そのため、ビジネスでも、もしくは休暇を楽しむ目的でも十分に満足できる都市型リゾートに更なる進化を遂げています。

ちなみに、ダナン市中心部から40分程度の隣接するホイアン市には、在越日本人には大変著名な「日本橋」があり、歴史的な建築物や街並みが保存され、こちらも日本とベトナム両国の歴史ある交流を感じることができます。

ベトナム国内におけるダナン市は、ホーチミン市やハノイ市の空港から約1時間20分で便数も多いため、アクセス面でも非常に優れております。

また、日本からは成田空港からの直行便が毎日ダナン市に運航しております（今後もアクセスや頻度は増えていくと想定されます）。

新たにベトナムでビジネスを検討されている方は、お馴染みのホーチミン市やハノイ市だけではなく、ダナンも選択肢に入れられてみてはいかがでしょうか？

日本ではまだまだ実現することが難しい「ワーク・ライフ・バランス」の素晴らしさを堪能できるものと思われまます。是非ともスローライフが堪能できるスマートシティを実体験してみてください。



ダナンの街並み

※人口では、北部の港町ハイフォン市がベトナム第3位（200万人弱）